



2015 -2016 年度

国際ロータリー会長：K. R. ラビンドラン「世界へのプレゼントになろう」  
第2560地区ガバナー：山本 和則「夢 (gift) を明日へ繋げよう」

**三条北ロータリークラブテーマ「ロータリーの輪を広げよう」**

会長：外山 晴一  
幹事：渋谷 義徳  
SAA：石川 一昭

例会日：火曜日12:30～13:30  
例会場：三条ロイヤルホテル TEL.34-8111  
事務局：三条市本町3-5-25三条ロイヤルホテル内  
TEL:0256-35-7160 FAX:0256-35-7488



HP：<http://www.sajo-nrc.org>

AD：[north@sanjo-nrc.org](mailto:north@sanjo-nrc.org)

**本日の行事：「ライラ研修報告会」**

- ◆本日の出席：66名中37名
- ◆先々週の出席率：65名中58名 87.88%  
(前年同期 86.76%)

- ◆本日のゲスト：第15回ライラ研修生  
芳賀真太郎君・坪谷 怜君  
久保有平君・瀧澤賢一君

- ◆先週のメイクアップ (敬称略)  
10月24日・25日ライラ研修会  
佐藤秀一・下村啓治



**会長挨拶：外山晴一会長**



(アメリカのフリーメイソン)  
イギリスでは新興ブルジュワジーをジェントルマンとして支配層に取り込んだが、それでも古い社会に飽足りない人は新天地

アメリカに夢を求めた。つまりアメリカで古い宗教と王族、貴族制度といった身分制度などの中世の縛りが無い自由な社会、身分に関係なく自由に金儲け出来る資本主義社会を作ろうとした。

アメリカ独立戦争の英雄で初代大統領であるジョージ・ワシントンはじめ多くの大統領がフリーメイソンである。アメリカの独立宣言を起草したベンジャミン・フランクリンもメンバーであり、アメリカの独立宣言はフリーメイソンの建国宣言ともいわれるほどフリーメイソン思想で書かれている。

アメリカに渡ったフリーメイソン、つまりブルジュワジーが重視したのは子弟の教育である。子弟を教育することにより新しい国、アメリカの支配層を作ろうとした。

まず、1636年にハーバード大学を作り、ブ

ラウン、コロンビア、コーネル、ダートマス、プリンストン、ペンシルベニア、イエールのエイシヤント・エイト (伝統8校) と呼ばれる東部エリート伝統私立大学群を作った。卒業生はアイビーリーガーと呼ばれ、アメリカの支配層になった。WASP (ホワイト・アングロサクソン・プロテスタント) である。

彼らがヨーロッパにおける貴族やイギリスのジェントルマンに代るアメリカの支配層となった。そこで重んじられているのはヨーロッパの貴族やジェントルマンに負けない教養と品性、倫理性である。社会で成功 (金儲け) して社会に寄付で還元するという倫理観がアメリカで出来た。この伝統8校はすべて私立大学であり、寄付でなり立っている。ハーバード大学は260億ドル (約3兆円) の基金を持つ世界一豊かな大学である。よって奨学金制度も充実していて金がなくとも頭さえ良ければ入学でき、アメリカのみならず世界中から優秀な学生を集めている。

また、このような寄付だけでなく、貴族同様のミリタリーサービス (軍務) もアイビーリーガーには求められており、軍歴の無いものはアメリカの支配層には入れない。まさにアメリカ版ノブレス・オブリージュ (貴族の義務) である。

このようなアメリカ社会でロータリークラブが生まれるのである。

## 幹事報告：渋谷義徳幹事



- ・三条市青少年育成市民会議より 青少年の為のコンサート周知のお願い  
12月12日(土)15:00～中央公民館大ホール  
私のメッセージ三条市小学生大会周知のお願い  
11月14日(土)9:20～中央公民館大ホール
- ・三条ローターアクトクラブより 11月第一例会公開例会のご案内  
11月5日(木)19:30～リサーチコア4F  
今回は外山会長が卓話をされます。皆さんも出席して下さい。
- ・佐渡南RCより 40周年記念誌の送付について(受付におきます)
- ・燕RCより IM報告書の送付について( )

## 理事会報告：第5回 平成27年10月27日(火) 11:30～12:30

出席者：外山晴一、金子太一郎、渋谷義徳、石川勝行、石川一昭、岡田 健、落合益夫、斎藤 正  
早川瀧雄、武田恒夫、今井克義、羽賀一真、岡田大介、佐藤秀一  
オブザーバー：山中 正 出席数：14/16 (内委任状3)

- 協議事項1. 指名委員会報告 承認  
次年度会長エレクト(2017-2018年度会長)として渋谷義徳会員を指名推薦  
年次総会に提出
2. 国際奉仕委員会からの提案事項 承認  
ソウル国際大会参加経費補助 地区の詳細発表を聞いた上で対処  
他2項目については審議打ち切りとする
3. 休会届けの件 承認
4. 30周年&社会奉仕事業反省慰労会開催の件 承認  
2016年5/17例会を夜例会として実施 担当は親睦活動委員会

## 委員会報告 30周年実行委員会(石黒副実行委員長)

CD作成を担当しています宜しくお願いします。曲が2曲出来ました、メインはひらりさんが歌いますが、会員の皆さんから楽器、合唱等で参加して作り上げます。これから編曲するに当たって楽器等での参加希望がありましたら是非申出て下さい。



## \*\*\*\*\*ロータリー財団ボックス27日現在累計191,000円\*\*\*\*\*

小林 繁男君 BOXに協力!  
落合 益夫君 ロータリー財団に協力  
丸山 勝君 財団に協力します。  
本間建雄美君 ロータリー財団を宜しく。私事で済みませんが早退させていただきます。  
石川 友意君 BOXに!!



## \*\*\*\*\*米山奨学ボックス27日現在累計295,000円\*\*\*\*\*

澁岡 茂君 笹原さんにお付き合い  
米山 忠俊君 米山奨学会に協力  
大野 新吉君 久々の4番テーブルです。ライラ研修にご参加の若い社員の方々ご苦勞様です。子供の頃からの仲間(女性4名男性4名)8名で群馬の四万温泉に行ってきます。当然、運転手は私です!!安全運転で行ってきます。  
笹原 壯玄君 BOXに協力。ライラ研修ご苦勞様でした。



## \*\*\*\*\*ニコニコボックス27日現在累計294,000円\*\*\*\*\*

白倉昌夫さん(会員OB)先日のゴルフ大会で優勝しました。(ペリア戦)お礼です。いつも参加させて頂きましてありがとうございます。  
米山 忠俊君 ゴルフ同好会、納会コンペで因らずも優勝しましたのでBOXに気持ちです。

星野 義男君 ライラ研修の皆さん大変ご苦労様でした。佐藤委員長に感謝します。  
 佐藤 秀一君 ライラ研修生の皆さん、今日までが研修みたいなものですね！お疲れ様です。  
 斎藤 良行君 先日初めてゴルフコンペに参加させて頂きました。ありがとうございました。  
 又次回も宜しくお願いします。

石丸 進君 BOXに協力  
 笹原 壯玄君 〃  
 高橋 彰雄君 〃  
 森 宏君 薬剤師が一人寿退社。昨日ここで送別会。ガッカリ。



## 本日の行事：「ライラ研修報告会」

R I 第 2 5 6 0 地区第 1 5 回ライラ研修 10 月 24 日(土)・25 日(日)

研修会場：新潟薬科大学

テーマ：「健康な生活を送るために貴方は何が出来ますか？」



### 佐藤秀一ライラ委員長

新潟薬科大学を会場として、ライラ研修会がありました。

研修会といえども、石油の里、紅葉谷などをゆっくり散策しました。私は初めて行ったのですが、なかなかいい所で、又行きたいと思いました。

2 日間の研修でしたが、研修生の方々は同年代なので皆さん意気投合してものすごく盛り上がって楽しんでくれたようですが、今日は最後に緊張する場が待ちっていました。しっかり、落ち着いて報告よろしくお願ひします。

### 芳賀真太郎君 富士印刷(株)



《ライラ研修会に参加して》

今回のライラ研修会では、「健康日本 21」に関する講演を聞き、それをもとに健康な生活を送るためにどうやって健康寿命を伸ばしていくかを各グループに分かれ討論しました。

現代の日本人の健康寿命は平均寿命のマイナス 10 年だと言われていています。それは、人生の最後の 10 年が闘病生活や介護生活にあたるからだと考えられます。現に日本人の平均寿命は伸びているものの認知症の人が増え介護施設が増えてきている現状は、あまり好ましくないとします。

健康寿命を伸ばすためには、メタボリックシンドロームからなる肥満、糖尿病、癌などの生活習慣病を予防、改善をしていくことが必要です。これらの予防には、食生活の見直し、効果的な運動、禁煙、正しい健康情報を入手し活用する事が大事だそうです。私のいたグループでも若さに任せての暴飲暴食、睡眠不足等の人が

多数いました。またそこから無理をして入院した方もいました。私たちも生活リズムの改善が必要なことに気付かされました。特に私は、暴飲暴食はありませんが禁煙に関しては、私のまわりには私も含めたくさんの喫煙者がいます。日頃から会社にいるとき社長に禁煙を進められますが、中々踏み切れませんでした。しかし、講演中に実際に喫煙がもとで癌を発症した患者さんの話を聞き恐怖心を覚えました。現在 1 日に吸う本数を決めて禁煙と格闘中です。また正しい情報の入手、活用に関しては、私自身がネット世代ということもありインターネットに頼りがちです。信頼性に欠ける情報も鵜呑みにしてしまうこともあるのでこれからは、講演中に学んだEBM(医学的な根拠が臨床で求められる)を上手く活用していきたいと思ひます。

その他にも研修中は、新潟県立植物園や石油の里などを散策しました。日頃から立ち仕事の多い私には、適度な運動になり良かったです。工作中、外に出ることの少ない私にとって天気も良く紅葉もとても綺麗でした。また様々な異業種の方と触れ合う機会もあり色々な仕事の話も聞くことができました。普段なかなか会社では出来ない話もでき同世代との交流をはかることができました。私はこのライラ研修会で健康でいることの大切さや新たに友人をつくり自分の世界を広げていくことの大切さを学びました。

### 坪谷 怜 君 外山産業

(株)



ライラ研修に参加させて頂き、友人を作り、自分自身の健康を見つめ直す、記帳な体験が出来た事を感謝いたします。

研修テーマになっている、健康な生活を送る為

に何ができるのかという事について新潟薬科大学で、教授の青木定夫氏による講演が行なわれました。その講演を聴き、健康寿命を延ばすにはどうしたらいいのか、自分も考えて見ました。成人病とは生活習慣が発症原因に深く関与している疾患です。そこで生活習慣を変えるために、問題点を挙げてみました。

喫煙、飲酒、過食、夜更かし、運動不足などが考えられます。喫煙、飲酒をする事によってストレス解消するのは、体の健康にも悪く、受動喫煙により、周りの他人に悪影響を及ぼします。それを防ぐには、適度な休養、規則正しい生活リズムと睡眠により、ストレスを除去し、リラックスすることが大事だと思います。過食を防ぐには、よく噛んで、食事を味わいながらゆっくりと食べることでダイエットに繋がります。運動不足に関しては無理をしない程度にですが、体脂肪が燃えやすい体を作ることが、エネルギーを消費することよりも重要だと思います。

そこで基礎代謝を高めるために筋力トレーニングを行なっていこうと思いました。

今回は医師である青木定夫氏の講演でしたが、健康情報はインターネットの普及により、簡単に入手できるようになりました。そういった中、情報の信頼性の判断は難しくなっているの、嘘の情報に惑わされないようにしていきたいと思っています。

ここまで健康寿命を延ばすにはどうしたらいいのか話してきましたが、健康寿命とは、介護を受けたり、寝たきりになったりせず、日常生活を送れる期間の事を言います。幸せな老後を送るために大事な事だと思います。ですが、その一方で健康寿命が延びることで高齢者が増え続け、高齢化が進むことにもなります。以前は65歳以上の高齢者1人をおよそ9人の現役世代で支えていましたが、近年は3人を1人で支える形になっている様です。このままでは高齢者1人を1、2人の現役世代が支える社会が見込まれています。こういった健康寿命が延びる事による影響部分を社会全体で見つめ直していかなければならないと感じました。

グループの活動では、新潟県立植物園と弥生の丘での散策や、石油の里ともみじ園の見学を行ないました。そして夕食会やグループ協議などを二日間にわたり、共に行なってきました。

その活動を通して、楽しみながら同世代や年上の方、異業種の方、他国の方と交流を深めることができました。自分とは違う仕事や他国の文化などについて話したり、意見交換する事でお互いに刺激を受けさらに頑張ろうと思いました。今回の貴重な体験を今後の人生に活かし日々成

長していきたいと思えます。

ライラ研修に携わって頂いた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

## 久保 有平君 (株)グリーンライフ



《RYLA 研修を通して学んだこと》

まず初めに、今年 24、25 日に行われました RYLA 研修に参加させていただきまして誠にありがとうございました。外山会長、引率していただいた佐藤青少年奉仕委員長を始めとする三条北ロータリークラブの皆様には深く感謝申し上げます。

「健康な生活を送るために貴方はなにができますか？」をテーマに青木定夫先生の大変貴重な講演とその講演を踏まえたグループディスカッションだけでなく、開催地新潟市秋葉区の名所である県立植物園や石油の里見学等豊富なプログラムを組んでいただき、大変貴重な 2 日間を過ごすことができました。また、同年代の様々な職種の方々と出逢い、直面する課題に対してお互い議論を重ねて解決に向け、取り組むことで親睦を深め、次世代のリーダーとなるべく刺激し合う場ともなりました。2 日間の研修、特に青木先生の講演を受けて私が自身の健康的で充実したライフスタイルを送るために見直さなければいけない課題と今後の目標を述べさせていただきました。

まず、青木先生は健康な体を維持するためにはバランスの取れた食生活をしなければならないことを挙げられていました。特に塩分の取りすぎや野菜や果物をとらない、熱すぎる飲み物や食べ物の摂取はがんの原因となることがこれまでの研究から明らかにされています。私の食生活に置き換えてみると、昼食には塩分の多いカップラーメン、就寝する 2 時間前には好んで肉類等の脂質の多い食事を摂るなど将来的にがんの発症しやすい乱れた食生活をしている私にとっては大変耳の痛い話となりました。塩分を控えた食事に切り替えると同時に、効率よく仕事を終わらせることで早めの夕食を摂るなど、この研修を機に自身の食生活を見直すきっかけにしたいと思います。

食生活と同様に健康に欠かせないものが運動です。肥満の予防や解消には、運動も食事制限と同様に人間の充実したライフスタイルを形成する上で重要な要素です。私は小学生の頃から剣道をしており、社会人となってからは子供の頃にお世話になった剣道教室で週 1 回、今度は先生という立場で稽古に励んでおります。ただ、

子供の頃のように毎日の稽古も行っておりませんし、お酒やたばこ等の嗜好品に手を出すようになり日々体力の衰えを感じております。「子供の頃のようにはいかないな…」とわかっている、いざ試合稽古になると負けず嫌いな性格が祟ってか無理をしてしまうことが数多くあります。青木先生も「若い頃に運動をしていた人は、昔できていたことは今でもできる気になって怪我をすることが多いので、要注意」と警笛を鳴らされておりました。怪我をした際の会社や家族への迷惑を考えると、社会人としての責任感の欠如があったことは私自身深く反省しなければいけません。「自分1人の身体ではない。」その言葉を常に頭に入れ、節度ある運動を心掛けたいと思います。

最後にグループディスカッションの課題テーマでもありました「健康寿命」について自身の体験を基に考えてみたいと思います。健康寿命とは介護を受けたり寝たきりになったりせず、日常生活を送れる期間を指します。私も大学生時代に網膜剥離という目の病気を患い、1か月ほど入院して日常生活を通常に送れない時期がありました。当時は就職活動の真っ最中で1次面接を控えた大事な時期でしたので落胆も大きく、自暴自棄になりかけていたことをよく覚えております。しかし、今思い返せば部屋を明るくせずテレビを視聴する、コンタクトレンズをつけたまま就寝するなど結局自分の目に対する不摂生な生活から招いた結果だったのです。現在では目の病気を機に定期的な健診と目に負担のかけない生活を心掛けるようになり、後遺症が残ることなく生活できています。1か月という短い期間ですが入院生活はごく当たり前の、健康な生活をできていることがどれだけ幸せなことか痛感させられる出来事になりました。話を戻しますが健康寿命というのはこういった不摂生が積み重なって知らず知らずの間に削られていきます。講演でも妻と2人の子供の家族を持った50歳代の男性がたばこによる末期がんになり、「たばこなんて吸わなければよかった。」と後悔を残して亡くなっていたという話がありました。人生は一度きりしかありません。食生活の乱れやたばこ、間違った運動等、私自身課題が山積みですが40年、50年後の自分自身が生きてきた人生を後悔することのないように、この研修を通して学んだ健康寿命を延ばす努力を今後は続けていきたいと思っております。最後になりますが、自身の健康について考える本研修の機会を与えてくださいました三条北ロータリークラブの皆様には重ねてお礼を申し上げます。皆様のように多大なる社会的奉仕活動

とまではいきませんが本研修の内容を会社の同僚や剣道を教えている子供たちにしっかりと還元し、健康であり続けることのできる社会を作る次世代のリーダーとなれるよう自己研鑽していきたいと思っております。

## 瀧澤 賢一君 (株)メッツ



三条北ロータリークラブの皆様、ライラ研修参加の機会をいただき、ありがとうございました。

10月24、25日にかけてライラ研修に参加、修了してまいりました。

今回の研修は「健康な生活を送るために貴方は何ができますか？」をテーマに、新潟薬科大学青木教授の講演を受け、「健康寿命を伸ばし、平均寿命に近づけるにはどうしたらいいだろう」という課題に対して、グループ内で議論し発表するといった内容でした。

講演は、厚生労働省が「全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現」を概念として掲げた、「健康日本21」に沿って行なわれました。

「健康日本21」とは、健康寿命の延伸・健康格差の縮小を実現するための意識の向上、健康づくりの取り組みを推進する運動です。

青木教授の講演を聞くまで私は、健康について無関心で、まったく考えることはありませんでした。講演を聞き、あらためて今の生活習慣を考えてみると、これから先の人生に不安を感じました。私の今の問題点は、

- ①ラーメンやファーストフード等の高カロリー食品を頻繁に摂取。
- ②喫煙。
- ③夜10時以降の夕食。
- ④運動の習慣が無いこと。

このままでは、生活習慣病にかかってしまいます。健康でいる為にも、生活習慣の見直し・肥満を防ぐ食生活・運動による基礎代謝の向上を行なうことの重要性を理解することができました。徐々に改善していけるようになりたいと思っております。

講演の終了後、グループに分かれ、新津の散策を行ないました。

私が所属させていただいたグループは男性6人（そのうち海外留学生1人）女性2人の8人グループでした。グループの仲間は性格の明るい方ばかりで、すぐに打ち解けることができました。

仲間の職業を聞くと小学校の先生、建設業、会社事務、製造業、小売業、マレーシアからの留学生と皆がバラバラで、私のたずさわる業種以外の方や海外の異文化と触れ合えることができ、それぞれの仕事の大変さや仕事に対する考えを聞き、意見を交換することができました。私自身、何か視野を広げることができたように感じています。大変貴重な経験をさせていただくことができました。

散策は、県立植物園・石油の里・もみじ園をまわらせていただきました。自然と触れ合うことで季節を感じることができ、日々の日常を忘れ、リラックスした時間を過ごすことができました。散策が終わると、宿の「わか竹」へ移動し、懇親会が行なわれました。

宿では、一日を共に過ごしたグループ以外の方達とも、お酒を通じて交流することができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

1日目が終わり、2日目は研修の課題である「健康寿命を伸ばし、平均寿命に近づけるにはどうしたらいいだろう」について、グループ協議、発表会を行ないました。

私のグループの結論は、死亡原因の大半を占める「がん」を含む、生活習慣病に掛かりにくくする為に、生活習慣を見直し、食生活を改善、

運動の習慣化を目標にしようと話がまとまりました。目標をおぼえやすくする為に、ロータリークラブのロータリーを頭文字に標語を作りましたので、紹介させていただきます。

ロ → 老後も衰えない体作り。(体力、筋力をつける)

オ → 大食いをしない。(肥満の防止、お酒の飲みすぎに注意しよう)

タ → タバコはダメ。(百害あって一利なし)

リ → リラックス効果によるストレス減。  
(休養や睡眠を適切にとりストレスをためない)

イ → いつまでも続けよう。  
(継続して取り組み、健康で幸せに暮らせる社会を目標にしよう)

グループで考えた、この標語をもとに私自身も健康意識を高め、取り組みを行なっていきたいと思えます。

最後になりますが、ライラ研修に参加し新しい仲間との出会い、人生の大先輩であるロータリアンの皆様方からの指導や経験談を聞かせていただくことができ、私にとって刺激となり、充実した時間を過ごさせていただきました。今回学んだことや経験を、家族や友人、社内へと還元できるように今日より頑張っていきたいと思えます。



# 11月のお祝

会 員	誕生日	ご夫人	結婚記念日
小林 幹扶	10	佐藤ミチ子	9
石黒 隆夫	13	落合千鶴子	16
佐藤 義英	18		
坂内 康男	18		
丸山 勝	26		
岡田 大介	27		
柄沢 憲司・佑子			3
小林 幹扶・明美			3
金子太一郎・節子			3
青木 省一・征子			5
山口 龍二・ミチ			7
丸山 正男・夏子			11
今井 克義・房子			14
下村 啓治・宏子			14
浅野潤一郎・正子			15
羽賀 一真・麻美			18
石丸 進・咲子			23

## 第6回(納会) 外山会長杯ゴルフコンペ

10月15日(木) 月岡フォレストゴルフ倶楽部

- |          |      |      |      |     |      |
|----------|------|------|------|-----|------|
| ■ハンディ戦優勝 | 米山忠俊 | ■準優勝 | 柄沢憲司 | ■三位 | 斎藤良行 |
| ※ペリア戦優勝  | 白倉昌夫 | ■準優勝 | 外山晴一 | ■三位 | 丸山 勝 |



管理委員長の思い

RI 指定記事

## 11月が「ロータリー財団月間」である理由

2015-16年度ロータリー財団管理委員長 レイ・クリンギンスミス

11月はロータリー財団に注目し、財団プログラムに対する認識向上と財団寄付の推進に一層大きな力を傾ける月となります。



しかし、なぜ11月なのでしょう。

これは1956年5月、国際ロータリー(RI)理事会によって11月15日を含む週が「ロータリー財団週間」に定められたことから始まりました。この特別週間は、私がロータリー財団の国際親善奨学生として南アフリカに留学した1961年時点で既に定着しており、アフリカ南部の大半のロータリークラブで財団にスポットを当てた取り組みがこの週に実施されていました。また、帰国後に私の故郷であるアメリカ・ミズーリ州ユニオンビルにクラブに入会したのですが、そこでも同様の取り組みが行われていました。

当時、多くのクラブでは、財団週間中の例会の食事コストを抑え、節約した分を財団に寄付するという工

夫がなされていました。そのころはロータリアン個人ではなくクラブとしての寄付が大半であったため、この方法は財団寄付を向上する上でとても効果的でした。しかし、なぜRI理事会は、11月15日の週を選んだのでしょうか、さらに1983-84年度から、週間から月間へと期間を拡張することを、1982年に決めたのでしょうか(この時、財団週間だけでなく、すべての週間が月間になりました)。

これは私の推測ですが、1956年の決定は、当時の北半球にあるクラブ、特に大規模クラブで、夏期(6~8月)の活動があまり活発でなかったことと関連しているのではないのでしょうか。このため、財団について会員の理解を深めるには、年度開始から少し時間を置いたところで、時間をとって会員を啓発するのがベストであるとの考えに至ったのだと思います。多くの寄付はクラブから寄せられるものであったため、このような時間はクラブ内で寄付を募るためにも重要でした。また、投資目的からロータリー年度上半期に送金するという観点もあったため、このような計らいはクラブと財団の両方に

とってプラスとなりました。

私の推測がどうであれ、ロータリー財団月間は、私たちの財団の成功にとって欠かせぬ存在で、これからも重要な月であり続けるでしょう。11月は、地区やクラブが質の高い財団プログラムについてロータリアンを啓発し、より良い世界を築くための支援を募るという伝統を継承する月となります。

私たちの財団はロータリアンからの支援によって支えられている最高の組織です。ロータリアンの多くは、古くから続く11月のロータリー財団月間を通じて財団に対する理解を深めており、この月間の重要性を軽んじることはできません。今月、全てのクラブが、財団にスポットを当てた活動に取り組み、全てのロータリアンが、クラブや地区の財団行事に出席することを願っています。財団月間は、大きな影響と成果を生み出す伝統です。皆でこの伝統を継承しましょう。



## RI 日本事務局 財 団 室 NEWS

2015年11月号

発行日: 2015/10/28

ロータリー財団月間



**財団月間** の11月は年度前半のラストスパートです。お気づきの方もいらっしゃると思いますが、これまで長い間世界第2位の寄付額を誇ってきた日本の寄付は、本年度国別総額では、米国、韓国に次いで、現在のところ第3位となっています。日本の皆様の一層のご支援をお願いいたします。

RIレート

11月: \$1=¥120

10月: \$1=¥120

寄付振込先:

二井住友銀行 三井支店(996)